（別紙様式）

平成30年度　学校評価シート（専攻科）

学校名：　和歌山県立熊野高等学校　　学校長名：　鈴木　孝夫

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校 幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒

本年度の重点目標	
	1　授業の充実と確かな学力の育成を図る。
	2　キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。
	3　地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上を図る。
	4　倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。

達成度			
	A	十分に達成した	（80%以上）
	B	概ね達成した	（60%以上）
	C	あまり十分でない	（40%以上）
	D	不十分である	（40%未満）

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
評議員会を実施し、インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載する。

（注）1　重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。　2　番号欄には、重点目標の番号を記入する。　3　評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4　年度評価は、年度末（3月）に実施した結果を記載する。　5　学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価								学校関係者評価
重点目標					年度評価（12月 14日 現在）			平成 30 年 12 月 17 日 実施
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。生徒たちも真剣に取り組んでいるが、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、自分なりの学習方法を身につけ計画的に学習を進めている生徒が少ない。また、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成させるよう指導する。そのため、自分で目的を持ち自学自習の習慣が確立ができるようきめ細かい個別	教員が授業研究等を行うことで授業力向上をはかっている。 生徒の主体性向上のための方策がとられている。 専門職者として学力向上と技術を獲得し自分の目的を目指す学習を意欲的に行うことができている。	生涯にわたって探求を深める未来の創り手として送り出すために、生徒の主体性向上のための授業力向上を図る。	研究・公開授業を実施する。研究協議を実施した際には、内容を共有できるように情報提供の機会を確保する。	研究・公開授業を実施。特に研究授業においては、協働学習を取り入れ生徒の主体性向上の取り組みに一定の成果が得られた。	A	授業力向上の取組を継続し、さらに実効性のあるものとするため工夫する。	・ 授業参観は、生徒が集中して熱心に受けていた。特に芸術や小児看護論も授業に工夫が見られた。 ・看護研究発表会については、これまでの研究過程において分かりやすく説明して欲しい部分があった。もっと自分たちの興味が湧いてくる課題にすべきだ。 ・教師は学生の意欲を高めるための環境構成が大事だ。 ・生徒達の発表で仮説を立て、科学で検証する姿勢が良かった。 ・各グループのテーマを見たら関心のありようがよくわかった。 ・看護科目は覚えるべきことが多く学生には苦痛になるが、なぜそれを覚えなければならないかの根拠をわからせることで、少しでもやりがいを持って勉強できるようになる。また、臨地実習前の事前課題については、実践に結びつく事前課題の提示の仕方を検討してほしい。逆に、事前課題を生かす内容を実習先に入れてもらうなどして、事前課題があまり役立たなかったと学生に感じさせない工夫が必要だ。 ・この発表会の準備に時間をかけていることが感じられる資料が多かった。看護師の研究はテーマがなかなか決まらないことが多いが、今日の発表は多様なテーマで驚いた。「はじめに」の書き出しのところでもう少し目的を明確にする方がわかりやすい。 ・最近の看護科生は学習面でも実力をつけ、多方面に進学してきている。また、地域の医療看護に携わる生徒も多く輩出され、災害時の貢献度も大になることは喜ばしいことと思う。地域に根ざす若者達の心のありようが将来の日本を支える大きなエネルギーになる。看護教育は、特に基礎となる高校課程においては、まず人物を育てること。その上で看護技術の向上を図るべきである。
			評価基準に則った学習指導を実施し、学力定着を実現する補習の充実を組織的に取り組む。	授業や夏休みの補習、放課後練習に参加率を１００%にする。模擬試験の偏差値の向上と国家試験全員が合格できる。	試験前や長期休暇中補習を実施。該当者全員が参加。学習習熟度に差がみられ低学力者が一部固定化しているが、継続的に行うことで成績向上に繋がった。		補習の実施は、継続する。補習内容は、考査対策だけでなく、教材の工夫や生徒一人一人に合わせた方法を検討する。看護師国家試験問題を活用する。	
			生徒各自の自己実現にむけての情報提供と共に個別的な丁寧な指導を行う。	進路アンケートや個別指導を実施し、生徒の進路に沿った自己学習指導を組織的に実施する。	４月当初に実施した２者面談や進路アンケートを実施。学年団と進路担当者が情報を共有し、指導に活かした。		学年団と進路担当者の情報共有はできた。早い段階で就職活動を行う生徒もいれば行動に移せない生徒と個人差がある。引き続き様々な看護活動の場の情報提供を継続して行い進路実現に向けて取り組む。	
2	卒業者37名のうち家試験合格者36名出すことができた。37 名中、進学者4名で、内１名が大学編した。また就職者33 名と進路実現できた。今年度も引き続き多くの卒業生を出すことを目標に国家試験合格を目指して努力していきたい。	生徒の進路実現に向けての取り組みがされ、生徒自身が自ら考え行動し、決定する指導ができている。 将来の看護師像をイメージでき、自分に合った進路先を決定できている。	「進路の手引き」の活用、進路講話、卒業生の体験談講話を実施しキャリア教育を充実する。	校内ガイダンスや卒業生の講話の効果的な実施。	卒業生や高校課程の生徒との「ようこそ先輩」を実施。校内ガイダンスを専攻科１年生は１回、専攻科２年生は２回実施した。進路実現に向けて、全生徒の面接練習をした。	B	キャリア教育の充実を図るため、ガイダンスの回数を増やし、将来のビジョンを抱ける指導が必要である。	
			適正・能力を掌握し、生徒各自の自己実現にむけての指導を行う。	進路アンケートを実施し、一人一人の進路実現に向けた丁寧な指導を行い就職・進学先が決定する。	実際の就職活動を行うのに個人差があった。進学においては、保健師学校１名、助産師学校１名。計画的に学習に取り組める学生もいたが、計画内容に基づいて学習できず結果に繋がらない生徒も存在している。		生徒の希望する進路先を決定するのに時間がかかる。そのため、早くから進路ガイダンスを行うと共に相談も行いやすいように環境を工夫する。	
			「進路だより」「保護者会」や面談等、様々な機会を捉えて保護者に向けた進路情報を発信する。	面談や「進路だより」など進路情報を触れる機会を設ける。	懇親会や三者面談を実施。懇親会で進路状況の情報提供を実施。		全体としての情報提供や三者面談中で個別のニーズに沿った情報提供を行う。保護者との連絡もはかり、関係性を密にすることで大切であり、この取り組みを継続していく必要がある。	
3	専攻科生になり社会人となる意識を育てるために、授業や自治会活動を通し地域・社会の一員としての意識を持ち、実習現場で実際の働きや地域の方と触れ合う機会を多くする必要がある。	授業や実習の中で、地域の特徴の中で生活している人々に対する知識を深め、防災訓練を通して自らを守ることと共に地域でどのような行動をとるべきか理解できている。 自治会活動を通し自己の役割を理解し、積極的に学校活動に参加する。	教科の授業や実習を通しリスクマネジメント能力の育成や実際の活動の状況に興味を促す。	公衆衛生分野において教科、実習を含め再試験該当者がでない。	教科への興味関心は、学年が上がり実習に赴くと増してくる。教科での再試験該当者は、若干いたが全員単位をとることができた。	A	教科や実習の取り組みは、このまま継続して行き３０年度を超える結果に繋げられるよう工夫改善を図る。	
			防災訓練の参加や実習施設の災害時の対応などを学び、様々な状況においての地域の活動や緊急時の実際の対応が理解できる。	地域の特性や活動に興味を持ち、災害訓練等のボランティア活動に参加する。	校内行事に積極的に参加。特に実習病院主催の災害ボランティアは、全員参加し、積極的に活動できた。		行事では、自治会役員主体で組織的に取り組んだ。災害ボランティアでは、該当クラス全員が参加し、自主的に積極的に活動する。このまま継続して30年度を超える活躍を期待すると共に支援・指導を行っていく。	
			自治会活動やHR運営、学校行事等、自主活動へ積極的に参加させる。	様々な場面で役割を担えることができ、各行事に積極的に参加する態度を育成する。	学年における行事や自治会主催の総会及び懇親会や送別会を生徒主体で実施した。			
4	生命の尊厳について深く認識することができ、真摯な態度を確立できる。挨拶、マナー指導の充実をはかり、生徒としての自覚・集団規律を持つことができる。	授業、臨地実習を通して看護師としての自覚と適正を養い生命の尊さについての学習を深める。挨拶、マナー指導の充実を行い、基本的生活習慣の確立ができる。	授業、臨地実習を通して、医療現場における生命の尊厳にかかわる問題に目を向け、様々な問題に立ち向かう強い精神と看護師を目指す者としての自覚を育む。	授業や臨地実習では、知り得た個人情報の遵守を徹底する。実習においては、誠実で真摯な態度を育成するため、自分の行動を振り返る機会を与える。	授業や実習において情報管理の重要性については理解でき、生徒全員が遵守することができた。	B	社会人として自己の行動や言動の責任が自覚できるよう働きかける。実習だけでなく、授業や日々の活動においても情報に対する管理能力を身につけることができるよう指導の徹底を図る。	
			社会人を目指すものとして、ＴＰＯに合わせた態度や服装が身に付くことができる。	身だしなみなどの生活指導が減少する。	実習や授業前の指導やマナー講習会の実施した。		社会人として自ら律し責任ある行動ができることの意味と必要性を理解し、基本的生活習慣の定着への継続した指導が必要である。	